

コーヒーを駆ける第3回「コメダ珈琲 おかげ庵 の思い出」

「おかげ庵」は加藤太郎社長が立ち上げたもう一つの喫茶業態です。コーヒー業態の「珈琲所 コメダ珈琲店」の基礎が定まり、店舗数が100店を越えた頃に開発した、和風喫茶業態が「おかげ庵」でした。1999年2月、名古屋市千種区赤坂町2丁目に第1号店の「茶屋が坂店」を開店しています。場所は名古屋市民の憩いの場所である茶屋が坂公園に面しており、この公園は地元では紫陽花で有名とのことでした。

広い敷地にはゆったりとした駐車場と2棟の建屋があります。屋根の高さが異なる建物は内部で繋がっており、高い板張り天井のホールには多くの客席があります。窓側にほうじ茶の焙煎機が設置され、焙煎時には香ばしい香りが店内に漂います。またレンガ造りのサービスカウンターにある湯釜からは、いつも蒸気が立ち上がっています。コーヒー同様の拘りなのでしょう、店内で焙煎したほうじ茶はビーンズバックで販売もされていました。



茶屋が坂店

蔵風の入り口

湯釜

ほうじ茶焙煎機

メニューは甘味喫茶の王道ともいえる、あんみつ、みつ豆、わらび餅が揃うのですが、訪問時の冬期間には大福の炭火焼きもありました。食事メニューでは雑煮、うどん・そば、人気のレトロスパゲッティ（ナポリタン）、点心としてあんまんと肉まんがあります。メニューブックはハンドメイドの写真貼りでしたが、何度も試行錯誤をしているように見受けました。



レトロ家具調ケース

メニュー表紙

フードページ

甘味メニュー

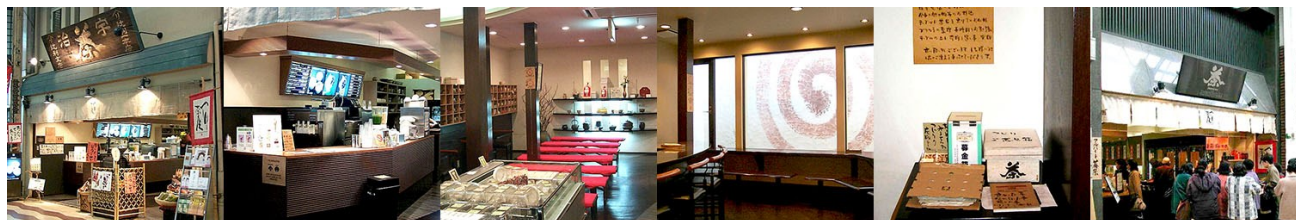
炭火焼餅

裏表紙

今回の「おかげ庵」訪問には事前の打ち合わせがありました。ワタル萩下四郎氏からの依頼で、北九州小倉の辻利茶屋社長辻利之氏にご同行いただいたのです。きっかけは当時発行していたカフェグッズ NEWS 第3号の「つじり茶屋特集」（2000年1月）をコメダの加藤社長に見ていただいたことでした。辻利茶屋さんのお考えや商いのスタイルに、強く興味を持たれたようでした。和風喫茶の「おかげ庵」開店から2年余りを過ぎた、2000年12月の訪問となりました。辻利之社長も「おかげ庵」に興味を感じた様子で、お誘いに快諾いただきました。個性的なスタイルを持ち、パイオニアワークを実践されるお二人と同席できたことは、私自身も勉強になり、ありがたい思いがありました。

小倉の辻利茶屋は京都辻利の分家になります。小倉で商いを始めてから既に 160 年が過ぎ、歴史を刻んだ趣が感じられます。北九州や福岡市内のデパートやショッピングセンターへの出店も多いのですが、小倉の京町銀天街（本店）と魚町店は本当に素晴らしいのです。お客様をお迎える店構えや心配りに、老舗の貫禄なのか圧倒され、辻利之社長にお願いして、当時取材させていただきました。

北九州小倉 辻利茶屋（銀天街の本店と魚町店）



本店

スイーツカウンター

緋毛氈の縁台(床几)

2 階の客室

目安箱

魚町店

和風スイーツを完成の域に高めた辻利茶屋は、若い女性客や子供たちを育み、主な客層となっていた主婦層にも人気でした。時代を超えてお茶を嗜むところを伝えていました。このご縁も、地元ワールドコーヒー商会の桧垣部長にお世話になりました。SOLO の PET カップやビーンズバッグをお使いいただいたご縁から取材が叶ったのです。今回は詳しくご紹介できませんが、ホームページをご覧くださいいただければ幸いです。

小倉 辻利茶屋 ホームページ：<https://www.tsujiri.co.jp/top>

当時のカフェグッズ NEWS は、お台場のビーナスフォート誕生を受けて発行を始めました。くしくも今年 3 月 27 日で閉館となりましたが、「女性のための美のテーマパーク」というコンセプトが話題でした。広大な屋内に広がる全天候型のショッピングセンターとして、先端のアパレル産業や高感度のアミューズメント施設に、外食大手の新業態やカフェが揃って出店し、華やかなショッピングゾーンとなりました。この NEWS の巻頭に記載した発行コンセプトが以下になります。（1999 年 12 月発行）

今、まさにコーヒービジネスのスタイルが変わろうとしています。あるいはお客さまのニーズそのものが変わり始めたというべきでしょうか。嗜好品として生活の一部を担うに至ったレギュラーコーヒー市場の情勢は、業務用市場の低迷を横目にしながら、オフィスや家庭用の安定した成長に支えられた感があります。従来の喫茶店から低価格コーヒーショップへのシフトは顕著な動きであるものの、業務用市場の拡大には結びつかず、缶やボトルのコーヒー飲料が日常化する中で消費者のコーヒー離れが深刻でした。

しかしながら昨今のエスプレッソをベースとしたカフェラテやカプチーノなどを中心メニューとする外資系スペシャルティコーヒーショップは、若い女性に代表されるコーヒーを飲まなかった顧客の取込みに成功しつつあります。特にスターバックスコーヒーは程なく園内 100 店を達成する程の成功を収めているのです。そして最近では海外有力ブランドの進出や異業種からの参入が相次いでいます。

その中で「カフェグッズ news」を発行することにいたしました。微力ですが市場の情報をタイムリーに提供し、優れたアイデアや商品を発掘し、そして消費者としての視点で課題や疑問を提起したいと思います。

「おかげ庵」に戻ります。



入口ホール

メニューケース

サービスカウンター

ほうじ茶ビーンズバッグ

同じく日本茶を志し、甘味やスイーツを商いの柱とするのですが、その由来や形態は明確に異なる 2 社。しかしお客様への直向きさと商いの本道については、多分同じ心に根差しているように感じました。

160 年の歴史をさらに明日へ繋ぐために、日々考え努力し、改革を進めていく小倉辻利茶屋の辻利之氏。

コメダ珈琲店の確かな手応えの上に、更に多くのお客様に向き合いたいと、意欲的な新業態に取り組む加藤大助氏。



人気のレトロスパゲッティ（和風パスタ）



炭火焼き 白大福

お二人の先達が見つめる先が、確かな未来であると思えた一日となりました。ここに導いてくれたのは、私の提案に耳を傾け、お付き合いと励ましをいただいた何人ものコーヒーを生業とする方々でした。その方々の導きがあって生まれたご縁だったのです。心から感謝しています。



客席ホール

高い天井

布張りソファ席

家具調ケース

焙煎機と坪庭

写真は 2000 年 12 月当時の「おかげ庵・茶屋が坂店」の様子です。現在も同じ場所で歴史を刻み続ける 1 号店ですが、20 年を超えた月日の中で、変わったのは外観の壁の色だけかも知れません。